

第29回MQI活動発表大会

2024年度MQI統一主題
活気ある次世代を担う病院への改革
 ～患者と地域のための医療体制づくり～

みみより
 MQI

発行（公財）練馬総合病院MQI推進委員会
 〒176-8530 練馬区旭丘1-24-1
 TEL03-5988-2200（代）

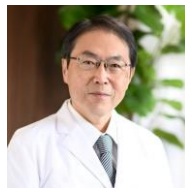
会場参加者 152人（院内138人、院外14人）

ZOOM参加者 68人（院内52人、院外16人）

ご参加いただき、ありがとうございました！！

第29回MQI活動発表大会を終えて

理事長・院長 柳川 達生



第29回発表大会は、令和6年12月7日に地下講堂およびWebのハイブリッド形式で開催されました。多くの皆様にご参加いただき、心より感謝申し上げます。今回の統一テーマは『活気ある次世代を担う病院への改革～患者と地域のための医療体制づくり～』でした。今年度のMQI活動はそれぞれ一定の成果があったと考えていますが、今後はさらなる成長を目指し、統一テーマの実現に向けて取り組んでいただければと思います。次回は第30回大会という節目を迎えます。今回の活動を一層発展させ、より良い成果を目指してまいります。

第29回MQI活動発表大会に関する総論的感想

株式会社 榎コンサルタントオフィス 代表取締役 榎 孝悦 様



前回の第28回MQI発表大会「活気ある次世代を担う病院への改革～理念実現のための職場づくり～」で、私は『30年近くの伝統を持つ練馬総合病院のMQI活動は、「守破離」の「離」の段階には入ったのでは』という感想を述べさせていただきました。

第29回MQI発表大会の統一主題は「活気ある次世代を担う病院への改革～患者と地域のための医療体制づくり～」で、その活動結果として、各チームのリーダーが「部門を超えて院内ルールを変えた（看護部）」、「職員意識の変化を感じた（リハビリテーション科）」、「多職種が連携して仕組みを作った（庶務課）」などの所見を述べていました（他のチームも同様の想いであったと思います）が、これが「離」に入ったMQI活動の

成果であり、「患者と地域のための地道な活動」を継続することの大切さを現わしていると感じました。

今、医療現場に求められている大きな変革の波に「医療DX」がありますが、業務やシステムの効率化、質の向上を図るためには、各現場の実情を踏まえた詳細な運用設計が必要になります。情報やデータの標準化・共有化による課題の抽出、全体と個別の二面からのメリット・デメリットの検証を行うことなしに「与えられた制度条件」にただ表面的に対応していたのでは、いずれ医療機関の運営は大混乱するのではないかと恐れています。また、医療現場におけるAIの活用も日々取り上げられていますが、これにも「職員一人ひとりが考え、行動する能力」がより一層問われてくると思います。

このような状況を前提に、今回のMQI発表大会の審査を行いました。各発表は、甲乙つけがたい内容であり、取り組む目線がより一層きめ細かくなってきたと感じました。昨年の感想として『「改革」というより効果的な「改善」の域を出なかったようにも思われ、若干の物足りなさも感じた。』と書きましたが、今回、この言葉を撤回し、「各チームの活動成果を共有することができれば全体の改革につながる。」と思いました（MQI活動を経てスタートした「入退院支援室開設」プロジェクトにその姿を見ました）。

本当に今年も素晴らしい発表であったことをお伝えし、MQI活動の節目となる来年の第30回MQI発表大会において、多くのチームが「変革の波に臨む発表」を行われることを期待しております。

特別講演「安全文化と医療の質」

日本赤十字社総合福祉センター 所長 矢野 真先生



講演では「安全文化と医療の質」をテーマに、標準化と個別性のバランス、そして、教育の重要性についてお話しがありました。質の高い医療を提供するには、教育・研修の充実や医療従事者の能力向上が不可欠です。標準化は医療者の「作法」として活用すべきであり、同時に患者の個別性を評価し、適切に対応する力を育む重要性を指摘されました。また、教育訓練では単なる手順の伝達に留まらず、患者の状況を的確に判断し、柔軟に対応できる能力を高めることが求められます。患者急変時の事例を通して、ルーチン化による安全性低下のリスクに警鐘を鳴らし、現場での柔軟な対応力の重要性を強調されました。さらに、医療安全の新しい潮流である「Safety2」にも触れ、成功事例からレジリエンスなどを学ぶ姿勢の大切さや、ガバナンス

強化、全員参加型マネジメント推進が課題として挙げられました。最後に、ミドルマネジメントの役割の重要性に言及し、2割の熱心な人材を発掘し、現場での教育体制を充実させる必要性を強調されました。本講演を通じて、多様性や個々の強みを生かした組織づくりを行うことの重要性を再認識できました。（文責：渡邊輝子）

参加チームからひとこと

	活動主体部署	看護部
	テーマ	手術入室時間による術前絶飲水時間のばらつきを減らす
	チームリーダー	瑠璃川悠里奈
	<p>今回の活動を通して患者様の利益を追求した業務改善が出来ました。チームメンバー全員で力を合わせて取り組み、とても有意義な活動になったと感じています。今後も当院の医療の質向上に貢献できるよう日々頑張っていきたいと思います。</p> <p>ルール変更に伴ってご協力いただいた皆様、また毎週の活動時間を設けられるようにご協力いただいた各病棟の皆様本当にありがとうございました。</p>	
	活動主体部署	内視鏡センター
	テーマ	内視鏡及び関連機器の点検・機器管理・取り扱いを見直す
	チームリーダー	金田洋輔
	<p>今回のMQI活動により、内視鏡センター職員がスコープの状況を把握する仕組みを作り、スコープをより大切に扱うようになりました。スコープを適切に管理することは、内視鏡検査の質を向上し、スコープの修理費用を削減することに繋がります。今後も、患者さんに質の高い内視鏡検査を提供できるよう、日々の努力を継続していきたいと思います。</p>	
	活動主体部署	リハビリテーション科
	テーマ	昼食時の離床率を上げる～食事は起きて食べましょう～
	チームリーダー	萩原早紀
	<p>今回の活動を通して病棟の食事維持間の離床率が向上したと実感いたしました。協力いただいた関係者の皆様、ありがとうございました。これからもこの活動を続けていきたいので皆さんご協力お願いいたします。</p>	
	活動主体部署	庶務課
	テーマ	施設基準の届出要件を管理する
	チームリーダー	中尾美菜子
	<p>今回の活動で各部署の皆様へ沢山のアドバイスをいただき、施設基準一覧表や管理の仕組みをつくることができました。ありがとうございました。</p> <p>施設基準を管理することは病院運営でとても重要なことだと思いますので、今後も継続できるよう取り組んでまいります。今後ご協力をお願いいたします。</p>	
	活動主体部署	放射線科
	テーマ	予約CT患者を予約時間通りに撮影する
	チームリーダー	安田恵里佳
	<p>今回の活動で予約CT検査の待ち時間を減らす事ができ、患者さんの負担を少しでも軽減できたのではないかと思います。今後も継続して活動してまいりますので、ご協力よろしくをお願いいたします。</p>	
	活動主体部署	入退院支援室
	テーマ	入退院支援室開設
	チームリーダー	蔵野弘美
	<p>今回、入退院支援室の開設に携わり、0から新しいことを始めるということの大変さを経験しました。今年度、「入院時支援」が軌道に乗ったので今後は退院支援に向けて、業務拡大していければと思います。</p>	

審査員より各チームへひとこと（一部抜粋）

	良かった点	今後の課題と思われる点・ご意見・ご感想 など
<p>★看護部</p> <p>『手術入室時間による術前絶飲水時間のばらつきを減らす』</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・目的、現状把握、目標設定等、テーマ全体を工夫されていると感じました。当院でも参考にしたい。当院は午前、午後で時間を決めた対応だと思うので、患者中心に変更しないとダメですね。 ・当たり前になっていたことに気付いたのは良かったです。患者さんが飲水しないという要因は重要ですね。 ・看護部の活動は最も患者さんと接しているため、多様な視点が絡み合い、目的と活動の内容が錯綜している様に感じていた。今回は目的と成果が一致し、わかりやすい活動であった。ブレなければ受賞常連チームが続出すると思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後パスの変更ができ、インシデントも起こることなく継続することを期待します。 ・手術の遅れる理由を検討することも有用と思います。（医師の要因は？） ・医療の情報は刻々と変化しています。今回の活動をお手本としてさらに新しい情報をキャッチして、多方面で当院での応用に活用してください。 ・今までの取り組みの中には、MQIチームが複数できる出来るのではという活動もあった。受賞を機に複数チームが編成されたら良いなと思った。
<p>★内視鏡センター</p> <p>『内視鏡及び関連機器の点検・機器管理・取り扱いを見直す』</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・演者の落ち着いた発表が素晴らしいと感じた。質問への対応もしっかりしていた。 ・安全性、経費削減、検査の質向上を目指して自ら取り組みられた点が良いと思います。 ・症例数のわりに、また他施設と比べて修理金額は低いという現状を良しとせず、活動を行い成果を上げた。このような取り組み姿勢は病院全体に展開されるべきだと思う。 ・使いにくさをアンケートで定量評価にしたのは良かったです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容的には良かったのですが、そのことが患者さんにどのように還元されて、良質な医療に繋がるかが表現されていたら、より充実した内容になったと思います。 ・発表は今年度活動途中の段階でしたので、年度終わりにはコストも含めて総まとめをして、次年度の活動に繋げてください。 ・内視鏡症例数と修理費用の関係に注目して取り組んだ活動ということであるなら2024年度の内視鏡症例数はどうであったか知りたかった。 ・この活動が継続していくことを期待しています。
<p>★リハビリテーション科</p> <p>『昼食時の離床率を上げる～食事は起きて食べましょう～』</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の活動成果は勿論であるが、今後の継続活動が楽しみな活動であり、本来の目的と思われる入院日数の短縮に繋げられる活動を期待しています。その第一弾としては素晴らしい成果でした。 ・患者さんが離床して食事できることはとても良いと思います。 ・今まで病棟看護師が個別対応に苦勞していた昼食時の介助に療法士の計画的な介助の協力が行われるようになり、実際、素晴らしい効果が見られました。多職種チームで患者さんに対応するGood事例だと思います。 ・医師の離床指示も30%程度増加しており効果が見られました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回課題としたところを、病棟や関係部署と話し合っ解決に向けて動いて下さい。 ・患者さんの摂取量、満足度など患者視点の評価を是非検討してください。 ・地域の方々も参加しているので車椅子の件は表現しない方が良いと思いました。 ・患者の個別性の評価を院内で標準化できると良いと思います。 ・活動を継続していくために看護師の業務量、インシデント発生等の調査も必要だと思います。
<p>★庶務課</p> <p>『施設基準の届出要件を管理する』</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・病院運営の根幹に関わるテーマを一から考える事で病院全体が施設基準に対する意識を高める事ができたプロジェクトだったと思います。発表の中で、歯止め及び標準化のスライドを丁寧に説明されていたことはとても印象的で素晴らしいと思います。 ・施設基準管理はどの病院でも問題となっており適時調査のたびにバタバタしている。本活動は病院全体を巻き込んだ大きな取り組みであり、大変な労力を費やしたと思える素晴らしい活動であった。 ・庶務課の業務量を減らす工夫が必要ですね。監査機能を高めてください。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回取り組みなかった平均在院日数などの数字の管理や看護師配置管理などのシステム化等、チャレンジしてみてください。膨大な内容の一覧表をより使いやすくするための工夫を今後の課題に挙げられていますので、是非実現をお願いします。 ・次回の診療報酬改訂で今回の成果が試されると思いますので、事前準備から新規基準や要件など、病院全体で情報収集と対応が出来るように活動の継続をお願いします。 ・施設基準が現場で対応されていることを評価することも有用と思います。
<p>★放射線科</p> <p>『予約CT患者を予約時間通りに撮影する』</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・患者さんが待たされる原因に対して工夫することで改善する取り組みは大変良いと思います。患者のニーズに対応した活動を継続してください。 ・予定通りに患者さんを受け入れることに頭を悩ませている医療機関は多い。その中で軸をブレさせないできめ細かい対応も含め狙い通りの成果をあげた次の展開が楽しみな活動であった。 ・「MQIは対策ありきの活動」と言われがちなところ、活動当初に考えていた対策も分析を進める中で方針転換して、実効性のある対策に結び付けることが特に良かったと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な検査が時間通りに行えることは患者、職員にとっても効率的だと思います。 ・患者さん目線からは、来院時間からの待ち時間、どのようにさらに満足度を上げられるか（待合場所や表示方法など）ニーズ調査も今後検討いただければと思います。 ・歯止め、標準化で業務マニュアル修正とか運用の周知に業務マニュアルを使用するとなっているが、発表の中ではマニュアルへの言及がなかったことが気になった。
<p>★入退院支援室</p> <p>『入退院支援室開設』</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・開設してから、いろいろな問題点がでてきて、皆さんがとても苦勞しているのがよく分かります。患者さんからは、よいサービスと評価を得ているので今後も頑張ってください。 ・PFMの導入は重要と思います。加算取得だけでなく患者さんにとっても外来や入院部門の業務軽減にも有効です。 ・入退院に関わる過去のMQI活動を踏まえて、その集大成として入退院支援室を開設したことは、改善・改革のストーリーとして素晴らしいと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入院前から退院後まで、院内外の協力を得てさらに活動を拡げてください。 ・退院困難例の入院期間短縮に向けての支援を充実させてください。 ・患者の意思決定支援にはスタッフの能力向上も重要です。 ・財務の視点で増収を成果として挙げられていたが、そのためには費用も発生している。このプロジェクト実施に当たって費用はどうだったのか気になった。 ・今後緊急入院も拡大していき、看護部・多職種で連携して退院支援がスムーズに進むことを期待しています。

★審査員紹介★

長時間にわたる審査をありがとうございました！



【審査員長】
東宏一郎
副院長
MQI推進委員会
副委員長



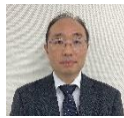
【審査員】
金内幸子
MQI推進委員会
副委員長



【審査員】
栗原直人
副院長



【審査員】
佐藤松子
看護部長



【審査員】
阿部哲晴
事務長



【審査員】
福本和美
副看護部長



【審査員】
矢野真様
日本赤十字社総合
福祉センター所長



【審査員】
関利一様
株式会社日立製作所
ひたちなか総合病院
TQM統括室経営支援センター長



【審査員】
槇孝悦様
株式会社
横コンサルトオフィス
代表取締役

各賞受賞チーム



特別賞【入退院支援室】

最優秀賞【看護部】

優秀賞【庶務課】

会場の様子



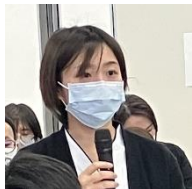
第1部座長
中里光宏
(臨床検査科)



第2部座長
佐久間貴裕
(麻酔科)



総司会
北島絵理佳
(栄養科)



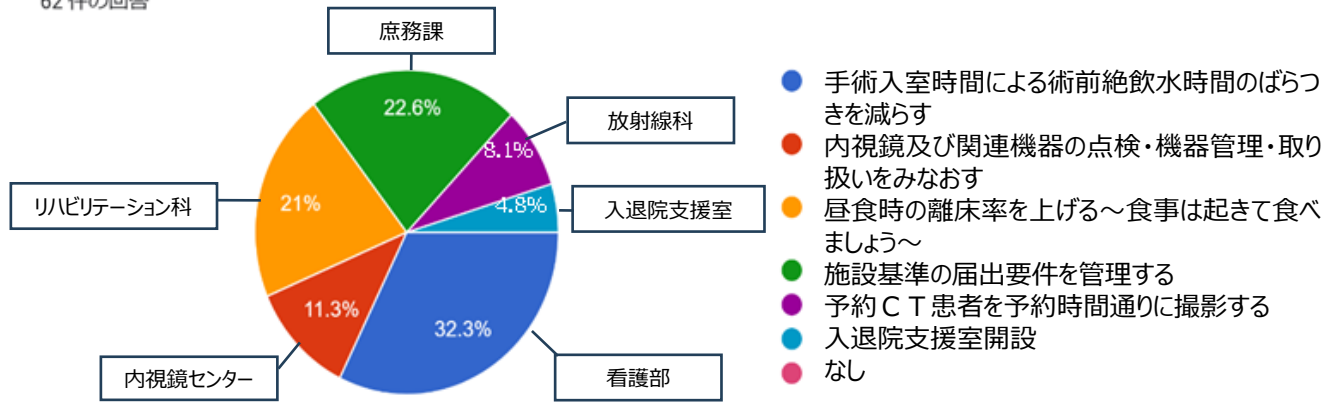
MQI推進委員



MQI 発表大会アンケート集計結果 (回答数62名)

良いと思ったチーム①

62件の回答



- 手術入室時間による術前絶飲水時間のばらつきを減らす
- 内視鏡及び関連機器の点検・機器管理・取り扱いをみなおす
- 昼食時の離床率を上げる～食事は起きて食べましょう～
- 施設基準の届出要件を管理する
- 予約CT患者を予約時間通りに撮影する
- 入退院支援室開設
- なし

MQI 活動発表大会に参加して良かったと思いますか。

- ・今回初めてチームメンバーとして参加させていただきましたが、委員会からのサポートが手厚く驚きました。
- ・今年度入職のため、病院がどのような課題を持っているのかよく分かった。
- ・職員の労力が多い割に内容があまり充実していなかった。
- ・良い内容でした。
- ・ZOOMは大きなアクシデントなくスムーズな進行でお見事でした。入念なリハーサルの成果が出たと思います。特別賞については若干疑問を感じます。MQI以外の場で表彰すべきだったのでは。
- ・今回本当にどのチームも素晴らしかったです！
- ・毎年参加させて頂いて、当院のQI活動の参考にさせていただきます。

今後、MQI 活動を継続的に実施していくためにはどのような工夫・配慮が必要だと思いますか？その他、当院（MQI 活動推進委員会）に期待すること、ご要望などがありましたらお書き下さい。

- ・仕組み作りが大事なのだなあと思った。再確認のためにもこの会に参加して学んで行きたいと思います。
- ・職種で発表する内容が異なり、色々な職種の業務の役割が知れ勉強になると思いますが、日々の業務が忙しく発表担当になった際に、負担がかかり残業が増えてしまう傾向にあるかと思っています。発表者を2人体制にするなど、1人に負担がかかり過ぎないように周りの人達がかもって協力するべきかと思っています。または、一時的に業務量を減らすなどの配慮があるかと思っています。
- ・病院全体のバックアップ、特に経営層のバックアップ、ねざらいが必要と考えます。活動の中で患者の不利益が解消される事でスタッフの満足度も向上すると思います。どの問題に着目させるかが大事であり、問題のを見つけ方を促進するスタッフの育成などが必要と感じています。
- ・看護師さんが1番患者さんと触れ合っていることが多いと思うので、病棟だけでなく外来の看護師さんや入退院支援のような別のところに派遣されている看護師さんのより効率的な演題があるかいいなあと思いました。
- ・1年で終わらない活動とかどうでしょう。
- ・1年での取り組みは大変タイトなこともあるかと感じます。また毎年同じ部署からの発表もみられるため、自発性は大事ですが、消極的な部署へも働きかけをしてほしい。
- ・推進委員会はかつて次世代を担う若手育成の場としての性格があったのですが、最近のメンバー構成は少し色合いが変わってきたように感じます。義務感が出すぎているのかも。その空気が出場チーム減少の一因なのかもしれません。一度くらいは、これこれをやってみただけ失敗しました！悔しいので立て直して来年同テーマでリベンジします！と言って翌年優勝をかつさうようなドラマ展開が見たいものです。
- ・過去に活動した者の感想としては、活動をするにはどうしても推進委員の方の協力が必須だと感じています。これからもチームに推進委員をつけて頂けると心強いです。
- ・部署内で解決することと本当に全体、他職種で関連していくべきことを分けるべきであると感じた。

<編集後記>

今年も現地とZOOMのハイブリッド開催としました。特に大きな問題はなくハイブリッド開催は概ね好評でした。当院のMQI発表大会も来年は第30回大会を迎えることとなります。気を引き締めて取り組んで頂きたいと思います。多くのMQI活動を期待しています。「現在、MQI推進委員会では職員の皆様からMQI活動に限らず改善活動テーマのアイデアを募集しています。詳細は、CoMedixのお知らせにてご確認ください。」